

アイスランドにおける中国人移民のコミュニティの形成と発展

The formation and development of the Chinese community in Iceland

金 京

JIN JING

摘要

Due to the remote geographic location, Iceland continued to be a relatively homogeneous society until the 20th century. However, from the 2000s, this Nordic country has experienced the influx of a large number of immigrants due to the strong economic growth and labor shortages. The increasing numbers of immigrants arrived to Iceland mainly from EEA countries. However, non-EEA countries citizens also soon became ‘visible’ in the host society, although migration policy was strict against the latter. In this way, immigrants from various countries brought some diversity to the society of Iceland.

With the growing number of immigrants, the increasing number of scholars has become interested in immigration issues such as the impact of immigration policy on non-EEA migrants and the integration process, in which the usage of languages and transnational practices were given special attention. However, no much research on the structure of ethnic communities and immigrants’ interaction within the ethnic communities has so far been done. In this study, I focus on Chinese immigrants and analyze how they built and developed their ethnic community in Iceland. Even though this community has a thirty-year-long history, it has not attracted much attention, particularly due to the small number of Chinese in the country. I use ethnographic data to analyze the migration of Chinese to Iceland and their life practices in this country.

Chinese ethnic organizations constitute the core of this community in Iceland, which has developed through the activities carried out by these organizations. The establishment of the Association of Chinese in Iceland and the cultural activities of this organization created a community space for Chinese immigrants, which allowed them to promote communication with each other and strengthen their unity. Besides, the establishment of the Icelandic Chinese Travel Association prevented competition between Chinese immigrants in the tourist business, which was initially caused by the dramatic increase in the number of Chinese tourists. This association elaborated various rules to overcome the disorder in the community, thereby ensuring the sustainability of its development.

キーワード：アイスランド 中国人移民 エスニック・コミュニティ エスニック組織

Keywords: Iceland, Chinese immigration, ethnic community, ethnic association

1. はじめに

北極圏に位置しているアイスランドは、遠く隔たっている地域であるため、移民の増加が周

辺地域より遅れており、2000年代以降から大幅な増加の傾向が見られるようになった。アイスランドの統計局のデータによると2019年の外国人の割合は12.4%に達し、これは2000年の2.6%と比べ約4.5倍以上高くなっている(Statistics Iceland, 2000-2019)。アイスランドは自由労働市場の改革と政府の高度介入の組み合わせで経済の成長を遂げ(Heleniak and Sigurjonsdottir, 2018)、加えて国内市場の労働力不足と低失業率が移民を引きつけている。

そのため多様な国からの移民がアイスランドにたどり着いた。1994年、アイスランドは欧州経済領域協定(以下はEEAと表記する)に加盟し、欧州単一市場にアプローチしはじめた。その後2002年に、アイスランドは新たな移民法令(Act on Foreigners, No. 96)と外国人就労法(Foreign Nationals' Right to Work Act, No. 97)を打ち出し、それらの政策に基づきEEA系移民の「自由」な移動と彼らが優先的に労働市場に受け入れられることを保障した(Minister of Justice, 2002; Ministry of Welfare, 2002:2)。一方2006年以降、アイスランドはEU拡大による東欧諸国からの大量の移民の流入を予測し、2005年の秋に非EEA系の低熟練労働者の就労許可の発行を制限してきた(Bissat, 2013:50)。

アイスランドの移民政策の影響下で移民の構成を見ると、EEA系移民は全外国人人口の約85%を占めており、その中でもポーランド人移民は44%を占めて圧倒的な一位となっている(Statistics Iceland, 2019)。それに比べ、アジア系移民は7.3%であり、人数ではフィリピン、タイ、ベトナム、中国という順になっている(Statistics Iceland, 2019)¹。

このように、均質的な社会であったアイスランドは外国人の流入に伴って多様な文化を持つ者の存在が可視化された社会に変容しつつある(Heleniak, Sigurjonsdottir, 2018; Bissat, 2013:48)。特に首都レイキャビクにおいては人口のおよそ42%(2019年)は外国人であり、外国人の増加とともに、エスニックレストランの出現や移民の児童を受け入れる学校の増加など、地域社会が多様化していつている(Statistics Iceland, 2019)。

現在までのアイスランドにおける移民に関する研究は、外国人受け入れの諸問題を主に二つの視点から論じてきた。一つ目は移民がアイスランド社会においていかに適応していくのかという問題である。それは移民の移住過程でのネットワークの役割(Bissat, 2013; Skaptadóttir, 2010)や、移民と母国の関係における送金の問題(PY Sigurðsson, 2015; Violeta Tolo Torres, 2013)、ホスト社会と母国の間における越境的な行動様式(Skaptadóttir, 2010)などである。また、言語習得の面から、移民はアイスランド語より英語の利用率が高いことが指摘されている(Katarzyna Dorota Zaorska, 2012)。二つ目はアイスランド社会の諸制度がどのように移民集団に影響を与えたのかである。たとえば移民政策がタイ人移民とフィリピン人移民を始めとする非EEA系移民の移住に与える影響(Bissat 2011, 2013; Skaptadóttir, 2010)や、ホスト社会の労働市場におけるポーランド人移民とフィリピン人移民の位置づけ(Anna Wojtyńska, 2012, Skaptadóttir, 2010)、2008年の経済危機がポーランド人移民とフィリピン人移民に与えた影響(Violeta Tolo Torres, 2013; Anna Wojtyńska, Małgorzata Zielińska, 2010)が挙げられる。しかし、移民集団の内部世界での生活の現

状、人間関係と組織の仕組みなどに関して、その実態を明らかにする研究は少ない。

異質な文化集団が共存しているアイスランド社会でエスニック集団の実態を把握することは、地域社会の発展にとって重要である。エスニック・コミュニティの研究は、新たに移住してきた異質な文化集団の生活世界—移住者の属性と構成、当該地域社会との相互作用で形成された組織の仕組み、フォーマル・インフォーマルな関係、経済活動（山本, 1997:1）を分析することから、異質な文化集団の実態と当該地域社会の変化を把握する上で大きな意義がある。

それゆえ本研究は今まであまり論じられていない中国人移民を対象にしたアイスランド社会におけるエスニック・コミュニティの実態の実証研究を通じて、多文化化するアイスランド社会における移民集団の多様な適応のあり方について提示することができる。また、中国人移民を対象にするに当たっては、母国の影響力も考慮することにより多面的な究明を試みる。中国人移民の場合、観光客を含めた中国人のグローバルな移動と中国の経済的な影響力の高まりは、特に在外中国人移民の生活と経済活動に影響を与えたからである。

中国人移民に関する研究は、Björnsdóttir (2012) のものが挙げられる。この論文では、人口学の視点—性別、年齢、教育、出生地域、職業から、中国人移民の特徴を明らかにしたが、中国人移民の内部の実態に関しては言及されていなかった。そのため本論文では、中国人移民がアイスランド社会でどのように自らのコミュニティを形成したのか、コミュニティ内部の実態がどのようなものであるか、といった問題を明らかにする。

本研究では、筆者が 2017 年から 2018 年にかけてアイスランドに滞在し、実施したインタビュー調査のデータを基に分析を行なう。本調査では、異なる時期（1980 年代、1990 年代、2000 年代、2010 年代）に移住した 28 名の中国人移民（男性 14 名と女性 14 名）を対象に個人ごとの移住経歴と生活の現状を中心にインタビュー調査を行なった。本研究のインタビュー対象者の学歴は、博士号取得者及び在学者が 8 人で、修士号取得者が 7 人で、大学卒業が 8 人、高校卒業および高校在学者が 3 人、中学卒業が 2 人である。その中で修士以上の学歴を有する人は 55% を占めるが、それは 1990 年代に移住した人と留学生の中では博士課程及び修士課程の経歴を持つ人が多数であったためである。しかし、回答者の職業は専門職と技術職が 9 人、経営職と管理職が 5 人、サービス職が 6 人、学生が 7 人という多様な構成となっており、アイスランドの中国人社会の様々な社会階層を代表していると考えられる。

2. アイスランドにおける中国人移民の特徴

本節では、中国人移民コミュニティの概要と特徴について簡潔に述べる。まず、アイスランドで中国のことがどれだけ知られていたのかについて、M さんの語りを通して見てみよう。

‘1990 年に私が中国へ行った時、周りの人は中国に対して何の印象を持たず、どんな国であるかを知らなかった。1990 年には中国とアイスランドの関係は多くなく、またその時は

インターネットもまだ普及しておらず、中国に関する情報は少なかった。しかし 2001 年に私が中国からアイスランドに戻ってきた時は、インターネットが普及しており、メディアの報道を通じて周りの人は中国の事情を以前より多く得られた。その後、世界貿易機関 (WTO) に加盟した中国は国際舞台で影響力を有するようになった。1990 年から 2010 年にかけて、中国は国内だけでなく国際社会の中でも大きな変化を表した。...しかし、全体的には中国の事情を知っているアイスランド人は少ない。その中で中国へ行った人や中国と貿易関係のある人、中国人児童を養子として受け入れた人など、何らかの関係で中国と関係のある人は中国に対して比較的肯定的な印象を持っている。’ (G,2018,5,18)

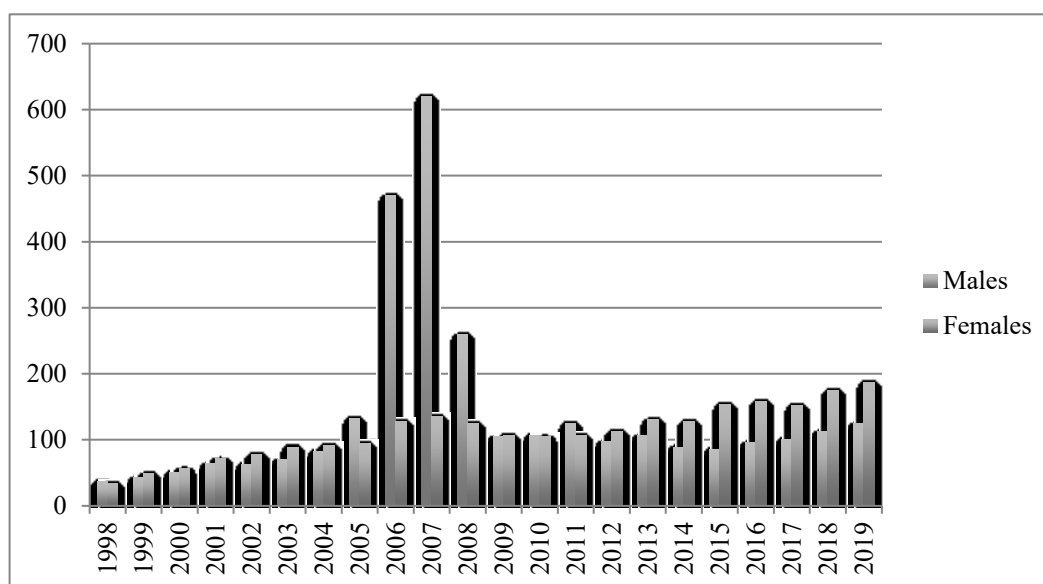
M さんが話したように、アイスランド人が得られる中国についての情報はインターネットの普及とともに拡大したが、中国に対して肯定的な印象を持っているのは少数の中国と接触機会のあるアイスランド人である。それ以外のアイスランドでの中国についての情報は、ほとんどメディアが報道するものに限られていた。このような環境の中では小規模である中国人移民の存在は、アイスランド人や研究者の間で広く知られてはいなかった。

現在、アイスランドにおける中国人移民は非 EEA 諸国の中で四番目の集団であるが、人口統計上は他国の移民集団と比べると小規模のものである。統計局によると、アイスランドにおける「中国出身の人口」² (Population by country of birth) は 686 人 (2019 年) であり、外国人総人口の中のわずか 1.1%に過ぎない (Statistics Iceland, 2019)。アイスランドに渡る中国人の総数は 1998 年から 2004 年の間と 2009 年から 2019 年の間には緩やかに増加していたが、2005 年から 2008 年の間で激しい増減が生じた (図 1 参照)。それはアイスランドのカウランユーカル水力発電所 (Kárahnjúkar Power Plant) の建設プロジェクトおよびレイザルフィヨルズル (Reyðarfjörður) にあるアルミニウム製錬所の建設が原因で外国人労働者の需要が生じ、そこで中国人労働者が一時的に雇用されることになったためである (Thorarins, MIRRA, 2013: 308)。彼らは、建設プログラムが終了後アイスランドを離れたため、中国人の総数は一気に減少した (Björnsdóttir, 2010:13)。当時雇用された中国人労働者は男性が多かったため、その時期に男性の割合が一気に高くなったが、2007 年前後を除けば中国人の男女比率は、女性の割合が男性より高いことが分かる (図 1 参照)。特に 2013 年以降は男女差がより大きくなっており、「2013 年、2014 年以降、アイスランド人と結婚する女性 (中国人) が増えている気がする。その前は結婚目的で来る人は、今日のように多くなかった。それは、以前中国人は就労で来ることができたが、今は難しくなったからだ。すべての人に就労許可を付与することはできず、本国人のできない仕事ができなければならない。」(Q,2018,4,8) と Q さんは語った。それは Bissat (2013) の指摘のように、アイスランドの移民政策が非 EEA 系移民を制限したことで、結婚は非 EEA 系移民にとってアイスランドに入る重要な手段となったためだ。中国人移民の場合も同じ傾向があり、結果的に女性の割合が大きくなったのである。

国籍取得の状況から中国人移民の構成を見ると、中国国籍からアイスランド国籍に変更した者は総計220人であり、男性は84人（38.1%）で、女性は136人（61.8%）である。女性の割合が男性より高く、アイスランドにおける中国出身者の658人（2018）の約44%に当たる³とわかる。しかし、他のアジア系集団であるフィリピン人とタイ人の国籍変更の割合と比較すると、フィリピン人移民の帰化率は約75%、タイ人移民は約70%で、中国人の帰化者の割合は相対的に低いと確認できる（Statistics Iceland, 2018）。

アイスランド国籍を取得する場合、アイスランドに7年間居住し、アイスランド語の試験に合格しなければならない。しかし、7年以上居住している中国人の中には帰化する者とならない者というパターンがある。たとえば、「私の家族では、一人がアイスランド国籍を取得し、もう一人は中国国籍を持ちながらアイスランドの永住権を取得した。」（Q, 2018, 4, 8⁴）という事例があり、一つの家族の中でも帰化する人と永住権取得の人の両者がいることもある。アイスランド国籍を取得する場合、アイスランドに7年間居住し、アイスランド語の試験に合格しなければならない。Björnsdóttir（2012）によると、中国人移民は積極的にアイスランドの国籍を取得していないが、それは彼らにとって選挙権は重要な要素ではないためということである。こうして在アイスランド中国人は、様々なことを考慮したうえで、全員が帰化するのではなく、その一部の者は永住権のみを取得すると分かる。

図1. Population by country of citizenship and sex 1 January 1998-2019年



（出典：Statistics Iceland:

https://px.hagstofa.is/pxen/pxweb/en/Ibuar/Ibuar_mannfjoldi_3_bakgrunnur_Rikisfang/MAN04103.px/table/tableViewLayout1/?rxid=a239a3c8-2724-4a0d-b2b1-19239505e3b5 2020/6/9 アクセス)

在アイスランド中国人の出身地域は多様であるが、福建省や浙江省のような典型的な移出地

域(僑郷)⁵出身者の人数が少ないことはそのコミュニティの特徴である(Björnsdóttir, 2010:30)。詳細な統計は未公開であるが、現地調査で得られた情報からは、安徽省出身者がその中では多く、その他にも北京、上海、大連、湖南など中国の各地からの移民がいることが分かった。

3. アイスランドにおける中国人移民の移住過程とコミュニティの形成

本論に入る前に、まずエスニック・コミュニティとは何かについて見てみる。山本(1997:16)によれば、「エスニック集団とは言語、生活様式、宗教などの文化的基盤により分類され、かつ、集団メンバーの間に単に文化や言語の共有だけでなく、先祖の同一性、血縁や地縁の共通と運命共同意識が存在し、他の集団との違いを意識するかれら意識など共同感覚や一体感が存在する集団」という。そのため、エスニック・コミュニティの形成には、文化的基盤と運命共同意識、そして集団構成員の共同感覚という三つの要素が不可欠であると考えられる。

ここでは、中国人移民のアイスランドへの移住過程を三段階に分けて、各段階における中国人移民のコミュニティの形成過程と変化を明らかにする。その中で中国人移民は何を紐帯としてコミュニティを形成し、どのような要素が彼らのコミュニティの形成と変化に影響を与えたのかについて考察する。第一段階は1971年の中国とアイスランドの国交樹立から1994年までであり、コミュニティが形成される前の時期である。第二段階は1995年から2010年までであり、コミュニティ形成の重要な構成要素として「アイスランド華人華僑協会」が設立された時期である。第三段階は、2011年から今日までであり、観光業ブームを背景に旅行業を中心とする経済活動が活発になり、旅行業に従事する中国人移民が増えて「アイスランド華人旅行協会」が設立された時期である。

3.1 移住の第一段階：中国人の長期滞在の始まり（1971年から1994年）—短期滞在から長期定住の始まり

戦前からヨーロッパの他の国に移住していた中国人に比べて、アイスランドへの中国人の移住は比較的に遅く、その人数も少ないという特徴がある。「アイスランドに渡った最初の中国人移民に関する情報を把握するのは難しいが、[中略]調べた限りでは、最初の中国生まれの人はアイスランド人女性と中国人男性の間に生まれた子供たちで、1937年にアイスランド人女性に連れられてアイスランドに渡った者であった。…彼らの話では、中国大使館が設立（1972年）される前には、アイスランドで中国人を見たことがなかった。その後、1980年代にアイスランドで「中華料理店」がオープンしてから、彼らは中国人移民に気づきはじめた」（Björnsdóttir, 2012:15）という指摘がある。つまり、「中華料理店」の出現は中国人移民の存在を表すシンボルとして意識されたのである。

「その時（1990年代）スポーツコーチ、大使館で働くスタッフとコックが何人かいて、留学生は非常に少なかった。」(M,2016,12,7)とMさんが話すように、大使館の関係者を除いて、

早期の中国人移民は二つの種類に分けられる。その一つは留学生で、もう一つはスポーツコーチである。

まず留学生に関しては、1979年に中国人留学生は国連大学のプログラム（Fisheries Training Programme; Geothermal Training Programme）を通じて、アイスランドに渡り勉強することができた。たとえば、UNU-FTP（United Nations University-Fisheries Training Programme）は、1979年に3名の中国人留学生を受け入れた⁶。その後毎年、数名の中国人留学生がこのプログラムを通してアイスランドに渡った。このプログラムに参加する留学生は公費留学生であり、一定期間の後中国へ戻ることが義務付けられた。1970年代と1980年代の留学生は主に修士（post-graduate）、短期研修コース（short term training course）に参加し、交換プログラムや受入学の奨学金、中国政府あるいは中国企業のサポートを利用していた（Xiang Biao, 2003:29; Frank N. Pieke, 2005:8; 蔣凱, 徐鉄英, 2007:73）。また、1980年代に入ってからでは自費留学生に関する政策が打ち出され、1984年の「国務院の自費出国留学に関する暫定規定」で、自費留学生に対する制限が緩和された（孟健軍, 2018:8）。

Mさんは1980年代末にアイスランドに留学し、その後定住した初期の定住者の一人であった。彼は大学を卒業してから働き、その後「箔をつける」（鍍金）のために、留学を目指した。彼は自分の専門分野と関係のある学校に連絡をした。その結果、アイスランド大学の教授が一番早く返信し、学校から受け入れの承諾をもらった。彼はアイスランドに対して何の情報もないうまま中国からアイスランドに渡ったのである。「当時私の教授は非常にいい人であった」と話したように、彼はまわりの人と良い関係を作った。卒業後彼は正式な職を見つけ、定住することになった（M, 2016, 12, 7）。

中国人スポーツコーチのアイスランドへの渡航は1980年代から始まった（国家体委編, 1982:135）。スポーツコーチは中国の対外援助の中で、技術的協力の一環として無償援助という交流の形で海外に渡り、一年から二年までの期間で諸外国へ派遣されるようになった⁷。毎年、バドミントン、卓球、バレーボールなどのスポーツコーチが中国からアイスランドに派遣されるようになったのである。

Kさんは1980年代後半にスポーツコーチとして中国からアイスランドに渡った。任期終了後、アイスランドのスポーツクラブに招待され、再びアイスランドに行った。「私は静かな環境が好きです。アメリカはにぎやかかも知れないが競争が厳しい。他の国からも招待はあったが、ここ（アイスランド）で長く生活し、慣れていて、他のところへは行きたくない。また、周りの人は友好的でここ（アイスランド）を離れたくない」と語った。彼は今日まで同じスポーツクラブで約30年間働き、周りのアイスランド人と長く良い関係を作った（K, 2018, 4, 13）。

上述のように、中国人のアイスランドへの移動は留学生やスポーツコーチのような政府間協定により派遣された、短期的に滞在する人たちから始まった。しかしその後、自費留学生の増加と派遣されて帰国した中国人の再移住により、アイスランドでの中国人の定住が進んだ。中

国人移民は、アイスランド、アイスランド人に対して、「静かで競争が厳しくなく、友好的である」という印象を持った。またその肯定的な印象と就労の可能性は彼らがアイスランドでの長期滞在を選択する原因となり、この時期から短期滞在者の中で定住し始める人が現れた。しかしその数は非常に少なかったため、アイスランド社会において中国人移民の存在はまだほとんど知られていなかった。

3.2 移住の第二段階：「アイスランド華人華僑協会」の設立とコミュニティ形成の始まり（1995年から2009年まで）

1995年、アイスランドに住み着いた18名の中国人が「アイスランド華人華僑協会」を設立することを決めた⁸。その背景として、「近年アイスランドで勉強と仕事をしに来る中国人が増加したが、普段お互いに忙しく、分散して居住しているため、会う機会が少なかった。[中略]また、アイスランドで他の国の移民はそれぞれ自分の組織を作上げたため、我々は非政府組織である華人民間組織を設立する必要があった」（『氷花』雑誌第一期, 1995）⁹ということが語られた。呉剣雄(1993: 284)は「海外移住の華人は助け合い、友誼と慈善事業のため、同郷会や宗親会¹⁰などの組織を結成し、移民の人数が増加した後、実際の状況に基づいて、だんだん同業や文化娯楽などの組織が現れた」と指摘した。

この協会は、アイスランドにおける中国人同士の「交流を増やし、共通点を求めて、相異点を尊重し、互いに助け合い、法律を守り、權益を保護し、主流社会に溶け込み、共に発展する」¹¹ことを目的とし、創立された。詳しく見ると、「交流を増やし、互いに助け合う」という点は、異国で生活する中国人同士の相互協力の意図を反映している。Qさんはその組織が設立されたばかりの時にアイスランドに留学してその後定住した人である。彼は、「最初にアイスランドに来て、誰とも連絡がとれない時期は寂しかった。まるでアイスランドで中国人は私一人だけのような感じで。その後他の中国人と連絡が取れて、生活（精神的な面）はだんだん良くなった。...その時インターネットはまだ普及しておらず、中国人の人数も少なかったため、我々は頻繁に会った。」(Q, 2018, 4, 8) というように当時中国人がおかれていた状況を語った。つまり、人数が少なく遠い異国で生活する当時の中国人にとって、同胞と知り合って交流できることは精神的な安定感を与えることであったのである。

「共通点を求めて、相異点を尊重する」という点は、異なる出身地、方言、学歴、職業などによる個々人の差異を尊重し、中国出身がもたらす同じ先祖と地縁という共通点を基にする意味を表している。まさにMさんが「華人華僑協会」は、商業利益を追究せず、すべての華人（華僑）を代表する協会である。他国で様々な協会（温州同郷会や潮州同郷会）があることに比べて、アイスランドは一つだけ」（M, 2016, 12, 7）と話すところのものである。また、「法律を守り、權益を保護し、主流社会に溶け込み、共に発展する」という点は、中国人移民がアイスランド社会の一員として権利と義務を実行しようとする志と主流社会へ適応しようとする意

景を持つ個々人の差異を尊重しながら様々な活動を通じて彼らを一つの組織として団結させることであった。次いで協会は、定期的な文化活動を行い同じ言語と出身国などの要素を有する中国人に集団の境界を認識させようとしたと考えられる。

物理的空間を見ると、「他の地域で居住すると、就職するのが難しいため、首都圏で住んでいる人が多い」(M,2016,12,7) というようにこの時期の中国人移民の多数は首都に住んでいたが、分散して居住していた。そのため、エスニック組織の活動は、中国人移民が集まって交流を行なう「空間」を提供した。経済的な面では、中国人移民はアイスランドの労働市場に組み込まれた。1990年代には「中華料理店」は二軒であり、新入中国人に就労機会を提供することができたが、それは限られたものである。2000年代後半から中華料理店は少し増えたが、それでも就職機会は少ない方である。「中国移民が従事している仕事の種類は多い。もしどこかで集中的に従事しているとすれば、漁業工場だと思う。あそこには、10人ぐらいいる。あと、中華レストランで働く中国人も10人ぐらいいる」(W,2016,12,7)と語られるように中華料理店で働く少数の中国人移民以外では、多くの人はホスト社会の労働市場に参加した。

上述したように、この時期にアイスランドの中国人移民は「アイスランド華人華僑協会」を設立し、組織の文化活動—雑誌の創刊、新年会、中国語教室などを行なうことにより、多様な学歴、階層、出身地の人々を一つの集団にまとめて、相互間の交流を増やし、お互いのネットワークを拡大してエスニック・コミュニティを形成したと言える。

3.3 移住の第三段階：観光業の振興と「アイスランド華人旅行協会」の設立（2010年から今日まで）

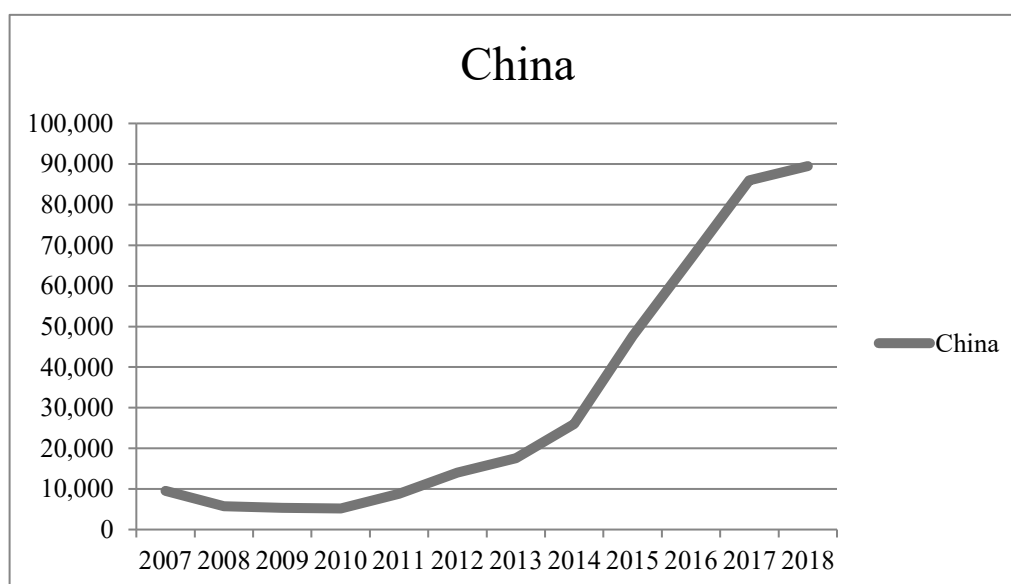
この時期は、アイスランド社会が経済危機から回復し、観光業が著しく発展してきた時期である。アイスランドにおける観光客は2010年から増加し始め、2010年の753,022人から2018年には2,984,018人と約4倍になった。その中でも中国人観光客の数は、全外国人観光客の中で3.8%を占め、第四位となった（2019年）¹⁵。アイスランドにおける中国人観光客は2010年以降から増加し始め、2018年までの約10年の間に5,194人から89,495人へと、およそ17倍に増加した（図2）(Statistics Iceland,2010-2018)。

アイスランド観光局の中国人観光客における調査によると、中国人観光客は以下のような特徴を持っている (Icelandic Tourist Board, 2018)。まず、「独特の自然風景」は中国人観光客がアイスランドを好んでいる第一の理由である。初訪問の中国人観光客が94%を占め、女性の割合(60%)が男性(40%)を越えている。25歳から34歳の年齢層の割合が48%、15歳から24歳が28%で、若い人が多い。中国人観光客がアイスランドで使う平均的な旅行費用は€2,438であり、全外国人観光客の平均的な費用(€1,645)のほぼ1.5倍に達している。旅行の種類に関しては、団体旅行の割合が70%であり、個人旅行の割合は30%である。上述の特徴から見ると、アイスランドへ行く中国人観光客は比較的若い層が多く、消費能力が高く、初訪問の人が

圧倒的に多いということになる。また、団体旅行が半数を越えることから、ガイドの需要が高いと考えられる。

中国人観光客の増加を受けて、アイスランドでは中国語のできる旅行業従事者が求められ、中国人移民の経済活動に変化が見られるようになった。ガイドとして働く中国人移民が著しく増加し、また旅行業の振興により中国人移民の中で起業する者が少し増えた。たとえば、中華レストランが増加し、旅行会社と撮影会社が出現したのである。ガイドの仕事は兼職とフルタイムという二つのタイプがあり、その中で兼職として働く人の割合が高い。「…ガイドの仕事は兼職の方が多い。それはいつ雇用されるかが分からないからである。今月は一回雇用されるかもしれないが、来月は二回かもしれない」(W,2016,12,7)と語られるように、兼職として観光業に従事する中国人移民の方が多かったが、それは季節によって人数が変化するため、正社員のように安定的な収入を得ることが難しかったからである。

図 2. Passengers through Keflavik airport by citizenship and year 2003-2018



(出典 : Statistics Iceland:

https://px.hagstofa.is/pxen/pxweb/en/Atvinnuvegir/Atvinnuvegir_ferdathjonusta_farthegar/SAM02001.px 2020/6/9 アクセス)

中国語ガイドは、アイスランドや中国の旅行会社、中国人移民が経営する旅行会社、その他の国からの旅行会社などの企業から必要とされている。そのため、「最近、多くの中国人がガイドの仕事をしている」(M,2018,5,18)と言われるようになり、現地の中国人移民が旅行業で活躍するようになった。中国人観光客の増加により、以前はホスト社会の労働市場に組み込まれていた中国人移民は、ホスト社会以外の労働市場でも需要がみられるようになってきた。それゆえ、中国人移民コミュニティ内部で中国語ガイドの仕事を巡って競争が生じている。た

たとえばCさんは料金の差異による利益の不均衡の問題に対して、「我々の組織（「アイスランド華人旅行協会」）では最低賃金を定め、それより低いものは禁止される」（C,2018,5,15）と語った。

諸問題を解決するため、2015年に8名の中国人移民の協議により「アイスランド華人旅行協会」が設立され、2018年にこの組織に参加した人数はおおよそ90人に達した（C,2018,5,15）。設立この組織は、観光業における中国人移民の経済活動の規則を作り、市場の秩序を整え、アイスランドに渡った他地域からの中国人ガイドと競争する中で自分たちの競争力を高めることを目指していた（C,2018,5,15）。例えば、この協会は最低賃金を決め、会員向けにメンバーカードを作った。また、この協会はアイスランドのガイド組合と交渉を行なっているが、そのようにホスト社会で正式に承認されることを通じて他地域の旅行従業者と差別化を図り、ホスト社会の労働市場における中国人移民の社会地位を保証する。特に「アイスランド華人旅行協会」の設立は、コミュニティ内部の経済活動に規範を作ることで無規則の競争からルールに基づく活動に変え、コミュニティ内部の秩序を維持するように努力したものである。

第二段階のコミュニティは、文化活動を紐帯に中国人移民同士の相互交流を促したが、第三段階では、中国人観光客の増加によりガイド・通訳のサービスを提供するための就労機会が生じたため、中国人移民は経済的な面での共同活動を始めた。つまり、中国人の観光は海外の中国人移民の経済活動の拡大を促したのである。このような彼らの経済活動拡大により、中国人同士の相互関係の緊密性が一層強まった。しかし、旅行業において兼職とフルタイムという二つのタイプで従事している中国人移民は、ホスト社会の労働市場にある程度組み込まれてはいても、新たな労働市場のセクタにおいて就職し職業の多様化を見せている。その過程において「華人旅行協会」は、中国人移民の経済的な共同利益を保護するために設立された。その設立は旅行業での無秩序な競争を避けるように市場環境を整え、その結果コミュニティの持続的な発展を促進させたのである。

4. 結論

本論文では中国人移民のコミュニティの形成と発展の過程を三期に分けて、移民に対するインタビュー調査で得られたデータに基づいてミクロな視点からコミュニティ形成の問題にアプローチし、その特徴の分析を行なった。アイスランドにおける中国人移民は1990年代から定住し始めた。この30年間で中国人移民はコミュニティを形成し、発展してきた。アイスランドの中国人移民コミュニティは、エスニック組織 — 「アイスランド華人華僑協会」と「アイスランド華人旅行協会」を、コミュニティ内の紐帯を強める手段とした。

初期の中国人移住者は留学生やスポーツコーチらであり、1990年代後半から留学生以外にも移民ネットワークを活かして移住する家族と親族の移民が増え始めた。留学生やスポーツコーチ、及び彼らの家族は、1995年に相互交流や扶助、共に発展することを目的として初のエス

ニック組織—「アイスランド華人華僑協会」を作った。この組織は、多様な出身地—安徽省をはじめ、浙江省、北京、上海、大連など—と身分—留学生や呼び寄せされた家族、結婚移住者、就労者などを持つ中国人を集めて一つのグループにまとめ、文化活動を通じて中国人移民同士の絆を強めさせた。

アイスランド社会ではエスニックビジネスの機会が少なかったため、中国人移民はホスト社会の労働市場に組み込まれ、多様な職業に従事してきた。しかし 2010 年以降、アイスランドの観光業ブームと中国人観光客の増加により、中国人移民の大多数は兼職とフルタイムという二つのタイプで旅行業に従事し、中国人観光客向けの新たな就労空間を作り上げた。中国人観光客の増加がもたらした中国人移民同士や他地域の人たちとの過当な競争を防ぐため、中国人移民は 2015 年に「アイスランド華人旅行協会」を設立した。この組織はコミュニティ内の無秩序を乗り越えて様々な規則を定めることで、コミュニティ内部の持続的な発展を促進した。

アイスランドの中国人移民はアイスランドの社会生活、労働市場に適応している一方、エスニック・コミュニティの空間において交流し、情報を交換し、様々な問題を乗り越えていった。特に母国である中国の経済的な影響力により、労働市場で有利な就労機会を取得している。アイスランド社会において中国人移民は小規模集団であり広くは知られていない存在であるが、彼らは母国の経済的な影響力下で自らの言語と慣習の知識を活かして、他の移民集団とは異なる適応過程を示したのである。

注

¹ アイスランドの統計局 (Statistics Iceland) のデータによると、他の地域の割合はそれぞれ、アメリカ州 (3.1%)、アフリカ州 (1.4%) と他 (3.2%) である。

² ここでの「中国出身の人口」(Population by birth of country) とは、中国生まれの人で、その後アイスランドに渡った人を指す。アイスランドの場合、中国国籍を持つ人以外に、中国国籍からアイスランド国籍に変更した人と中国から養子として育てている児童も含まれている。

³ 中国新移民国籍変更者の割合は、1991 年から 2018 年まで中国新移民の国籍変更者数÷アイスランドにおける中国出身の総人口数で求めている。ただし、中国出身総人口の中には特別なグループとして中国からの国際養子 183 人が含まれているが、ここでは中国出身総人口の中から国際養子の数を外した数字を利用した。

⁴ この括弧の内容はインタビュー調査者、調査年月日の情報であり、大文字のアルファベット、年月日という順で書いている。

⁵ 本論文で使う「僑郷」は中国語で侨乡という。

⁶ United Nations University: <http://www.unugtp.is/en/moya/page/f1979/2020/9/> アクセス

⁷ 国家国際発展合作署: <中国的对外援助白皮书>

http://www.cidca.gov.cn/2018-08/06/c_129925064.htm 2020/8/7 アクセス

⁸ アイスランドの華人華僑協会: <http://www.chinese.is/ACI/jieshao.htm> 2020/8/5 アクセス

- ⁹ アイスランド華人華僑協会ホームページ：‘氷花’雑誌，1995.10.18, <http://www.chinese.is/mag/01/01gb.htm> 2020/8/5 アクセス
- ¹⁰ 宗親会とは、同じ姓を持つ宗族の組織を指す。
- ¹¹ アイスランド華人華僑協会：この組織の宗旨は、「加强交流，求同存异，互相帮助，增进友谊，遵守法律，保护权益，介入主流，共同发展」である。
- ¹² 「アイスランド華人聯誼会」は1995年にアイスランドにおける中国人移民が最初に設立した協会の名称であるが、今は「アイスランド華人華僑協会」と改称している。
- ¹³ 『氷花』は1995年から2006年まで「アイスランド華人華僑組織」が中国人移民向けに刊行した雑誌である。
- ¹⁴ 今日では中国語教室は、孔子学院の教員が担当先生して活動を進めて行くようになっている。
- ¹⁵ アイスランドの統計局（Statistics Iceland）によるとアイスランドの観光客の国籍は、アメリカ、イギリス、ドイツ、中国という順になっている。

参考文献

1. Act On Foreigners No.96/2002, <http://www.humanrights.is/en/moya/page/act-on-foreigners-no-96-2002>.
2. Anna Wojtynska, Malgorzata Zielinska, 2010, ‘Polish migrants in Iceland facing the financial crisis’, *Rannsóknir í félagsvísindum XIII. Erindi Flutt á ráðstefnu í október 2010* :1-11.
3. Anna Wojtynska, 2012, ‘Polish workers in the capital area of Iceland’, *Rannsóknir í félagsvísindum XIII. Erindi Flutt á ráðstefnu í október 2012*: 1-12.
4. Frank N. Pieke, 2007, “Community and Identity in the New Chinese Migration Order”, *Popul. Space Place*, 13: 81-94.
5. Frida Thorarins, MIRRA, 2013, “The rise and fall of temporary staffing agencies in Iceland”, Hon Horgen Friberg, Line Eldring eds., *Labour migrants from Central and Eastern Europe in the Nordic countries: Patterns of migration, working conditions and recruitment practices*, Nordic Council of Ministers, 301-323.
6. Foreign Nationals’ Right to Work Act, No. 97/2002, Article 7, <https://www.ilo.org/dyn/natlex/docs/ELECTRONIC/64015/61222/F859279759/ISL64015%20Eng%202014.pdf>.
7. Icelandic Tourist Board: ‘Chinese travellers in Iceland: Demography, Travel behavior and Visitors opinion 2018’, <https://www.ferdamalastofa.is/en/research-and-statistics/visitor-surveys>.
8. Katarzyna Dorota Zaorska, 2012, ‘Language Use by Polish Immigrants in Iceland: English or Icelandic?’, *Háskóli Íslands Hugvísindasvið 2012 B.A. Eassy*.
9. Johanna Gísladóttir Bissat, 2013, “Effects of Policy Changes on Thai Migration to Iceland”,

International migration, 51 (2):46-59.

10.Johanna Gisladdottir Bissat, 2011, 'For a Better Life: The Integration of Thai Marriage, Family, and Labor' The Pennsylvania State University The Graduate School College of the Liberal Arts 2012 Doctoral thesis.

11.PY Sigurðsson, 2015, 'Remittance Behavior of the Filipino Immigrants in Iceland', Háskóli Íslands 2015, BS thesis in Business Administration.

12.Statistics Iceland: <https://www.statice.is/>.

13.Timothy Heleniak and Hjördis Rut Sigurjonsdottir ,2018, ' Once Homogenous, Tiny Iceland Opens Its Doors to Immigrants',

<https://www.migrationpolicy.org/article/once-homogenous-tiny-iceland-opens-its-doors-immigrants>.

14.Unnur Dis Skaptadottir, 2010, 'Integration and transnational practices of Filipinos in Iceland', *e-migranter* n°5:36-45.

15.Violeta Tolo Torres, 2013, 'The implication of the economic crisis on the Filipino community in Iceland and why families in the Philippines are affected', Háskólinn á Bifröst 2013 M.Sc. Thesis in International Business.

16.XiangBiao, 2003, "Emigration from China: A Sending Country Perspective", *International Migration*, 41: 21-48.

17.Þorgerður Anna Björnsdóttir ,2012, 'Um langan veg: lýðfræði fólks af kínverskum uppruna á Íslandi og þróun búsetu þeirra hérlendis', Háskóli Íslands Hugvísindasvið 2012 Ritgerð til BA-prófs í kínverskum fræðum.

中国語文献

1.国家体委编. 1982. <<中国体育年鉴>>, 人民体育出版社.

2.国家国际发展合作署 : <中国的对外援助白皮书>.

http://www.cidca.gov.cn/2018-08/06/c_129925064.htm.

3.呉劍雄. 1993.<<海外移民と華人社会>>. 允晨文化實業株式会社.

4.蔣凱, 徐鉄英. 2007. 近代以来中国留学教育的历史变迁. 大学教育科学, 第六期: 67-74.

5.李明敏. 2000. 『当代海外華人社团研究』, 厦門大学出版社.

日本語文献

1.山本剛郎, 1997, 『都市コミュニティとエスニシティ』 ミネルヴァ書房.

2.孟健軍, 2018, 「中国の改革開放と留学政策」, 独立行政法人経済産業研究所 : 1-40.